

[24]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/7218211>

出版情報：韓国研究センター年報. 24, 2024-03-21. Research Center for Korean Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



2023 年度
韓国研究センター活動

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

金智英先生講演会

「境界を越えた二人の詩人： 茨木のり子による尹東柱詩翻訳」

2023年6月2日

2023年6月2日（金）に、金智英先生（立教大学兼任講師）の講演会「境界を越えた二人の詩人：茨木のり子による尹東柱詩翻訳」（主催：九州大学韓国研究センター、後援：韓国国際交流財団）を開催した。

- ・日 時：2023年6月2日（金）16時40分～18時10分
- ・場 所：九州大学伊都キャンパスイースト1号館 E-B-112
- ・講演者：金智英先生（立教大学）
- ・司 会：辻野裕紀（韓国研究センター副センター長）
- ・定 員：80名（先着順）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

金智英先生は、『隣の国のことばですもの：茨木のり子と韓国』（筑摩書房、2020年）の著者として広く知られ、日韓双方の近現代文学に通暁した気鋭の文学研究者である。今回の講演会では、茨木のり子や尹東柱についての概論的な内容に加え、「茨木のり子の手になる尹東柱の詩の翻訳」という新規性のある知見が開陳された。尹東柱の母校である立教大学で教鞭を執る韓国人の比較文学者をこの福岡の地にお招きし、茨木のり子と尹東柱をめぐって多角的に語っていただけたというのは非常に意義深いことだったのではないかと思われる。

平日の夕方にもかかわらず、本学学生・教職員のみならず、多くの学外の方々にもご来場いただき、活発な質疑応答が行い、大変有意義な時間になった。

□講演者プロフィール

金智英（キム ジョン）

1984年韓国ソウル市生まれ。2014年大東文化大学文学部日本文学科卒業、2016年立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻博士前期課程修了、2019年同後期課程修了。著書に『隣の国のことばですもの：茨木のり子と韓国』（筑摩書房）がある。現在、立教大学兼任講師。

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催された。



主催：九州大学韓国研究センター 後援：韓国国際交流財団

金智英先生講演会

境界を越えた二人の詩人
茨木のり子による尹東柱詩翻訳

2023.6/2金 16:40~18:10
(終了時刻は変更の可能性があります)

九州大学伊都キャンパス
イースト1号館E-B-112

定員 80名

司会：辻野 裕紀 (韓国研究センター副センター長)
申込先：<https://forms.gle/kZrASDKRrX3fSFuV6>

講演者紹介
金智英 (キム・ジヨン)
1984年韓国ソウル生まれ。2014年大塚文科大学文学部日本文学科卒業。2016年立教大学大学院文学部日本文学専攻比較文学専攻修士課程修了。2019年同校同課程修了。著書に『誰の国のことばで？』、『茨木のり子と韓国』(筑摩書房)がある。現在、立教大学兼任講師。

問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL:092-802-2027 E-mail: intkrcs.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「世界史」の中の韓国、その文化交流、習俗の動向の研究の一環として開催されます。

「第104回定例研究会」

2023年6月10日

韓国研究センターは、2023年6月10日（土）に第104回定例研究会を開催した。この研究会は、韓国研究センターの研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」における共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」の一環として開催された。

- ・日 時：2023年6月10日（土）
- ・会 場・開催方法：Bizcoli MeetingRoomAB / オンライン「ZOOM」
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

第1報告

崔慶原（常葉大学 外国語学部 教授）

- ・「『1965年体制』変動への抵抗と順応—日韓「協力」と「和解」は相容れないのか」

第1報告は、「1965年体制」を基軸として、日韓関係の在り方について多角的に分析する発表であった。特にこの10年間において、「1965年体制」に影響を及ぼした出来事について、政権別に詳細な分析が行われた。また、「1965年体制」という安全保障秩序の意味について、文政権、安倍政権、そして現在の尹政権まで、体制への抵抗と順応の過程に注目し、日米韓連携の強化の基盤として「1965年体制」の役割を再確認した。「1965年体制」成立時期から日・米・韓・北朝鮮・中国の関係性など前提条件が変わった現在において、今後の日韓関係を考える際に、「1965年体制」による説明がどこまで有効で、何がこのフレームの限界なのかなど、活発な議論が展開された。



第2報告

梁炳贊（公州大学校師範大学教育学科 教授）

・「韓国の学校と地域の連携：マウル教育共同体運動と『草の根』教育自治の可能性」

第2報告では、韓国における「草の根」的な教育自治の実現を目指したマウル教育共同体運動について、その理念、背景の解説、先進事例の分析が行われた。マウル教育共同体運動は、これまで中央政府主導の均一化された教育や競争的な学力主義から脱却し、地域の住民と連携しながら学生に多様な経験の機会を提供する運動である。広域自治体・教育庁の教育監（教育長）に権限が集中した教育自治ではなく、革新教育地区を背景に、始興市、順천시、九老区などの先進事例が独自のカリキュラムを築き上げ、徐々に教育成果も見え始めていることが紹介された。まだ韓国では活発に展開中である動きであり、今後の展開についても注目が必要である。



【研究事業：教育学ブランチ研究会】

「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

2023年9月17日

2023年9月17日（日）、本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」における教育学ブランチの研究会が、九州韓国研究者フォーラムとの共催で開催された。

- ・日 時：2023年9月17日（日）
- ・会 場：アクロス福岡604会議室
- ・共 催：九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団
- ・司 会：元兼 正浩（九州大学 韓国研究センター長）
- ・指定討論：佐々木正徳（立教大学 外国語教育研究センター 教授）

2023年度から遂行されている本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国—その構造変動に関する総合的研究」は、歴史、文学・言語、経済、教育など、多様な分野の研究プロジェクトと共に進められている。今回の研究会は、教育学ブランチの研究プロジェクト「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」の一環として行われたもので、熊本学園大学の金美連先生と九州産業大学の鄭修娟をお招きして最近の韓国の教育に関連する興味深い発表が行われた。また、立教大学の佐々木正徳先生が指定討論者として参加し、より深い議論が展開される貴重な時間になった。

第1報告

金美連（熊本学園大学 外国語学部准教授）

- ・「韓国の学校における多文化共生の模索：多様性の追求と社会統合のはざままで」

第1報告では、最近急速に多文化化が進んでいる韓国において、重要な社会的課題として浮き彫りになっている多文化教育についての報告が行われた。本報告では、韓国の中央政府が進めてきた多文化政策及び多文化教育の具体的な展開過程とその変化様相などを紹介すると同時に、韓国の多文化教育が見せる特徴及びその課題などについて議論された。また、本報告では、多文化の子どもに対するまなざしなど具体的で生々しい事例が豊富に提供され、現時点の韓国の多文化教育についてより深く理解できる時間になった。



第2報告

鄭修娟（九州産業大学 国際文化学部講師）

・「韓国における教師の権利保障のための制度的基盤」

第2報告では、「教育権」などをめぐる教師の権利保障に関連するテーマの報告が行われた。まず、韓国における教師の「労働運動」の意味と変遷、そして教師の「教育権」をめぐる制度的環境に対する歴史的变化を扱った本報告は、韓国において「教師」という職業の社会的地位とその変化、そして「教育権」という概念の意味をめぐってより根本的に考える貴重な時間であった。特に本報告では、これと深く関わる最近起きた具体的な事件とその展開様相に基づいて議論を展開することで、現在韓国社会に關する最もタイムリーな一面を扱っている点でも注目された。



報告に続いて行われた指定討論と質疑応答では、最近韓国全体を揺り動かしている教育現場の切実な問題について、理念的・政治的言説に偏ることなく発展的な議論につながる方向への模索が必要であるとの問題意識が強く共有された。

共催：九州韓国研究者フォーラム 後援：韓国国際交流財団

九州大学韓国研究センター研究事業

『世界史』の中の韓国

その構造変動に関する総合的研究

教育学ブランチ研究会

1990年代以降の日韓の教育政策を 世界的潮流の中に読み解く

2023 9/17 [SUN] 13:30-17:00
(13:00受付開始)

会場：アクロス福岡604会議室

司会：元兼 正浩（九州大学 韓国研究センター長） 指定討論者：佐々木 正徳（立教大学 外国語教育研究センター教授）

第1報告
韓国の学校における多文化共生の模索：
多様性の追求と社会統合のはざままで
報告者：金 美連（熊本学園大学 外国語学部特任准教授）

第2報告
韓国における教師の権利保障のための
制度的基盤
報告者：鄭 修娟（九州産業大学 国際文化学部講師）

問合せ先：九州大学韓国研究センター TEL: 092-802-2027 E-mail: intkrcks.uok@jmu.kyushu-u.ac.jp

【研究事業：歴史学ブランチ研究会】

「韓国前近代国際関係の模式化と 意義の普遍化」第1回研究会

2023年9月23・24日

2023年9月23・24日、本センターの研究事業「『世界史』」の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究における歴史学ブランチの研究会が開催された。

- ・日 時：2023年9月23日（土）・24日（日）
- ・会 場：九州大学西新プラザ（ハイフレックス）
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム：

- | | |
|--|----------------------|
| 「二正面作戦を回避せよ！—激動の古代東アジア世界における高句麗の巧みな外交・軍事戦略—」 | ……………井上直樹（京都府立大学教授） |
| 「古代東アジアのディアスポラ—百済・高句麗遺民から考える新羅の外交—」 | ……………植田喜兵成智（早稲田大学講師） |
| 「中国皇帝のかさのもとで—渤海王の官爵利用—」 | ……………赤羽目匡由（東京都立大学教授） |
| 「リアリストと「華風」—高麗王朝の外交と文化意識—」 | ……………豊島悠果（神田外語大学教授） |
| 「はじき出されず、のみ込まれず—モンゴル帝国の覇権と高麗—」 | ……………森平雅彦（九州大学教授） |
| 「アポリアへの挑戦—朝鮮王朝の事大と交隣—」 | ……………木村拓（中央大学准教授） |
| 「忘れられた真実—朝鮮・後金関係と「交隣」の行方—」 | ……………鈴木開（明治大学准教授） |
| 「朝鮮後期における外国人の入境について—華人商人を中心に—」 | ……………辻大和（横浜国立大学准教授） |

現代日本社会における歴史の「常識」は、ホームグラウンドとしての「島国」日本の歴史や、世界史教育の中心をなすヨーロッパや中国の歴史が形作っている部分が多い。これに対して、前近代の韓国の複雑で一筋縄ではいかない国際関係は、上記の「常識」の限界を越えるための様々な「気づき」の宝庫である。そうした着想のもと、「『世界史』の中の韓国」プロジェクトの歴史部門では、韓国史の古代・中世・近世の専門家が結集し、各時代の象徴的・特徴的な事象をとりあげて状況の構図を模式化し、その意義を普遍的な観点から考えていくことを目指す。今回、第1回の全体研究会では、各メンバーがそれぞれのアイデアを提示し、今後の集約にむけて構想を練る機会とした。

古代史分野では、高句麗が大陸の王朝と海の向こうの倭の双方をにらみつつ二正面作戦を回避する外交・軍事活動を展開して、緊迫した国際情勢のなかで長期政権を維持したこと（井上報告）、渤海王が冊封宗主国である唐より下賜された官爵を独自に運用して政権宣揚のツールとして利用したこと（赤羽目報告）、高

句麗・百済の滅亡後、周辺地域に散った遺民たちの存在が、半島の覇者となった新羅の国家統合策に影響していたこと（植田報告）が論じられた。

高麗時代史分野では、中国の宋の文化に高い価値をおき憧憬の念を惜しまなかった高麗支配層が、現実の国際政治においては宋に対して冷徹なリアリストとして対応していたこと（豊島報告）、モンゴル帝国に服属した高麗が、王朝の安全と地位向上をはかるべくモンゴルとの一体化を促進する一方で、独自の王国としての枠組みを固守して解体・吸収を回避したこと（森平報告）を論じた。

朝鮮時代史分野では、朝鮮王朝が、冊封宗主国である明から「私交」として問題視されかねない対日外交について、対明関係と整合化させるための論理構築を模索したこと（木村報告）、後代に冊封・朝貢関係の典型とみなされるようになる対清関係について、その濫觴である後金との関係では「交隣」関係が設定されていたこと（鈴木報告）、朝鮮後期、中国国外に盛んに進出した清商人が朝鮮には入ってこなかった背景に、隣接陸域（現在の中国東北地方）や周辺海域に対する清・朝鮮両国家の管理政策が関係していること（辻報告）を論じた。

以上の検討をふまえ、今後は、これらの特徴と意義をさらに分かりやすく伝えるための図式化、モデル化の作業を進めていきたい。

【研究事業：共同研究プロジェクト研究会】

『『ポスト1965年体制』研究』共同研究会

2023年10月14日

2023年10月14日（土）に、本センターと九州韓国研究者フォーラムが共同で進めている研究プロジェクト『『ポスト1965年体制』研究』の研究会が開催された。

本共同研究プロジェクトは、2023年度から本センターが取り組んでいる研究事業『『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究』の一環として進められている。今回の研究会は、第1部の韓国東国大学日本研究所の研究者・成川彩先生の講演と、第2部の成川先生、出水薫先生（韓国研究センター副センター長）、緒方義広先生（福岡大学准教授）による鼎談という2部構成で行われた。

- ・日 時：10月14日（土）14：30～17：30
- ・会 場：博多駅バスターミナルの貸ホール（第1ホール）
- ・講演者：成川彩（東国大学日本研究所 研究者）
- ・司 会：出水薫（韓国研究センター 副センター長）
- ・定 員：30名（先着順）
- ・共 催：韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

RCKS 九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
：その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

POST
1965
年体制

後援：韓国国際交流財団

申込先 <https://forms.gle/hVg7u49WYcK8fRp9> (定員30名)
問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL. 092-902-2027
Email: intlckcs.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

2023.10.14(土)
博多駅バスターミナル貸ホール
(第1ホール)

第1部 講演
成川彩 (東国大学日本研究所 研究者)
88ソウルオリンピック以降の
韓国映画・ドラマの変化

第2部 鼎談・質疑応答
成川彩 (東国大学日本研究所 研究者)
出水薫 (韓国研究センター 副センター長)
緒方義広 (福岡大学 准教授)

□プログラム

- 第1部 講演：成川彩（東国大学日本研究所 研究者）
「88ソウルオリンピック以降の韓国映画・ドラマの変化」
- 第2部 鼎談・質疑応答
成川彩（東国大学日本研究所 研究者）
出水薫（韓国研究センター 副センター長）
緒方義広（福岡大学 人文学部東アジア地域言語学科 准教授）

□講演者プロフィール

成川彩（なりかわ・あや）

2006年神戸大学法学部卒業。2008年大阪大学大学院通訳翻訳専修コースを卒業した後、2017年まで朝日新聞記者として活動。韓国の東国大学映画映像学科修士課程を経て2023年同大学日本学科博士課程修了。現在、東国大学日本研究所の研究者。日韓の様々なメディアで執筆活動をしている。著書に『어디에 있는 나는 나답게(どこにいても、私は私らしく)』（2008、생각의 창）、『現地発 韓国映画・ドラマのなぜ？』（2023、筑摩書房）がある。

第1部

講演：成川彩（東国大学日本研究所 研究員）

・「88ソウルオリンピック以降の韓国映画・ドラマの変化」

本公演では、80年代後半以後の韓国の映画やドラマの変化を韓国社会の変化とともに辿ってみる作業が行われた。88年を前後とする韓国の民主化と冷戦の終結といった潮流の中で、韓国の映画やドラマではそれまであまり描かれなかった軍事政権や民主化運動、労働運動などが描かれるようになったことが指摘された。また、民主化によって映画の検閲が緩和されたことは事実であるものの、事実上検閲がなくなるのは2002年であったことも指摘され、その間の独立映画を通じた表現の自由拡張の闘争、憲法裁判所の決定などの一連の流れが紹介された。それ以外にも、90年代以降の韓国映画産業の変遷と日本大衆文化解放をめぐる背景など、興味深い話が続いた。



第2部

鼎談・質疑応答

成川彩（東国大学日本研究所 研究員）

出水薫（韓国研究センター 副センター長）

緒方義広（福岡大学 人文学部東アジア地域言語学科 准教授）

鼎談の形式で行われた第2部では、第1部の講演の内容に基づきながら、共同研究プロジェクトのテーマと関連する、より幅広い議論が展開された。日韓の関係や文化交流、そして、歴史的な出来事と社会の変化などについて、具体的な作品をあげながら進められた第2部では、会場に参加した方々からの質疑も活発に行われ、今回のテーマに関する高い関心を実感できる時間であった。



【セミナー参加】

「JIBSN セミナー2023 『境界地域の移住と観光を考える』」

2023年10月21日

2023年10月21日（土）に、境界地域研究ネットワーク JAPAN（Japan International Border Studies Network：JIBSN）セミナーが北海道・標津町）で開催された。同ネットワークは「日本の各境界地域の経験と交流をもとに、実務者と研究者との意見交換の場として機能し、このネットワークを通じて、境界地域を活性化する様々なアイデアやプランが生み出されることが期待されている。また同ネットワークは日本国内の内向き議論に終始せず、隣接する諸外国や欧米の境界地域研究ネットワークと広く接合し相互に緊密に協力しあうことで、大きな視野での問題解決や地域発展に寄与することを構想」（JIBSN ホームページより）しており、本センターもその趣旨に賛同して加盟機関として名を連ねており、昨年が続いてセンター長がオンライン参加した。

今年のテーマは「境界地域の移住と観光を考える」で、様々な報告者によって実務報告と質疑が行われた。人口減少（自然減）が続くなかで「社会増」を増やす手立てとしての移住の試み（ワーケーション、後継者支援など）や空き家不足などの課題について報告が行われた。観光については、コロナ禍を経てオーバーツーリズムが問題となる中、各自治体の受入れ態勢の課題が具に報告された。また、ロシアのウクライナ侵攻や台湾有事予測で緊張する国際情勢が加盟自治体のような国境に与えている影響など、ボーダー地域の自治体関係者ならではの報告もあり、平和を願いながらの熱心な議論が交わされた。

- ・日 時：2023年10月21日（土）13：30～17：30（開場13：00）
- ・会 場：北海道標津町文化ホール
- ・開催方法：対面・オンラインのハイブリッド開催
- ・主 催：境界地域研究ネットワーク JAPAN（JIBSN）
- ・共 催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター（境界研究ユニット UBRJ / 生存戦略ユニット SRCW）、NPO 法人国境地域研究センター（JCBS）、人間文化研究機構機関研究グローバル地域研究事業「東ユーラシア研究」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点（EES-SRC）、標津町
- ・協 力：ボーダーツーリズム推進協議会（JBTA）

□プログラム

●開会のあいさつ（13:30～13:45）：

工藤広（JIBSN 代表幹事・稚内市長）・山口将悟（標津町長）

●セッションⅠ「移住」（13:45～15:30）：

司会：池直美（北海道大学）

- ・久保実（五島市副市長）
- ・蔵部晃一（礼文町総務課長）
- ・伊賀敏治（対馬市しまづくり推進部長）
- ・西山一也（標津町企画政策課北方領土対策係長）
- ・渋谷正昭（小笠原村長）

●セッションⅡ「観光」（15:45～17:30）：司会：花松泰倫（九州国際大学）

- ・川野忠司（稚内市副市長）
- ・竹本勝哉（根室市副市長）
- ・田島忠幸（与那国町企画財政課長）
- ・高橋優人（竹富町自然観光課自然環境係長）

●閉会のあいさつ：

田村慶子（JIBSN 副代表幹事・NPO 法人国境地域研究センター理事長）

【研究会参加】

「朝鮮史研究会（第60回大会）」参加

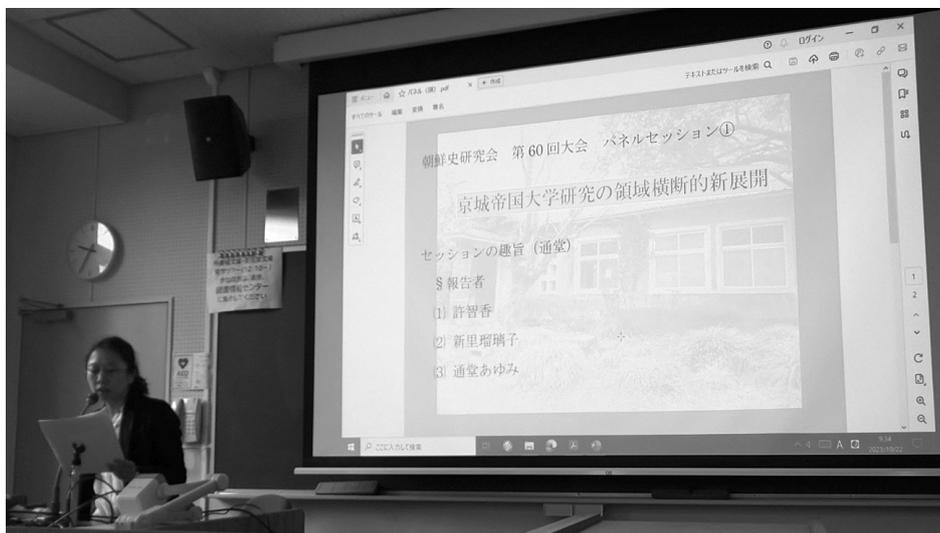
2023年10月21・22日

2023年10月21～22日に滋賀県立大学を会場として開催された第60回目の朝鮮史研究会大会に本センター関係者が参加し、2日目の個別パネルでは「京城帝国大学研究の領域横断的新展開」と題する4本の研究報告を実施した。

このパネルは、科学研究費・基盤（C）22K02232「京城時代の安倍能成—京城帝国大学史研究の領域横断的新展開—」の成果の一部として実施された。

- ① 「京城帝国大学『哲学、哲学史』講座の学生たち」
（許智香：立命館大学、科研分担者）
- ② 「京城帝国大学と朝鮮の独逸語教育史」
（新里瑠璃子：長崎外国語大学、本センター学術協力研究員、科研分担者）
- ③ 「新制武蔵大学の創設と京城帝国大学」
（通堂あゆみ：武蔵高等学校中学校、本センター学術共同研究員、科研代表者）
- ④ 「〈戦時の帝大〉と〈帝大の戦時〉—京城帝国大学に「附置研究所」が作られる《物語》の後先—」
（永島広紀：本センター教授、科研分担者）

当日は朝早い開始時間にもかかわらず、幸いに多数の参加者を得ることができ、活発な質疑応答が行われた。



【K-BOOK フェスティバル サテライトイベント】

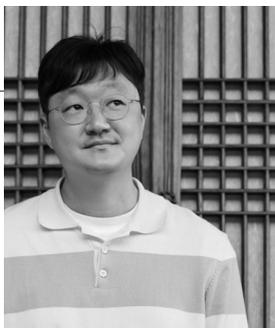
鼎談「韓国の詩人と考える文学の世界」

2023年11月21日

毎年秋に東京で開催されている K-BOOK フェスティバルのサテライトイベントが、2023年11月に九州でも開催された。今回のイベントは韓国の人気詩人二人によるポエムツアーの形で行われた。本ツアーの初回となる11月21日には九州大学韓国研究センターとの共催で鼎談会「韓国の詩人と考える文学の世界」が開催された。

- ・登壇者：オ・ウン+キム・ソヨン+辻野裕紀
- ・日 時：2023年11月21日（火）18：30～20：30
- ・会 場：JR 博多シティ10階会議室
- ・定 員：70名
- ・共 催：クオン、九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国文学翻訳院

□登壇者プロフィール



オ・ウン

1982年韓国全羅北道井邑生まれ。2002年『現代詩』にて詩人としてデビュー。詩集に『ホテルタッセルの豚たち』『私たちは雰囲気を楽しんでいる』『有から有』『左手は心が痛い』、青少年詩集に『心の仕事』、散文集に『君と僕と黄色』『なぐさめ』など。邦訳に『僕には名前があった』（吉川凧訳、クオン）がある。朴寅煥文学賞、具常詩文学賞、現代詩作品賞、大山文学賞などを受賞。



キム・ソヨン

詩人。露雀洪思容文学賞、現代文学賞、李陸史詩文学賞、現代詩作品賞を受賞。詩集『極まる』『光たちの疲れが夜を引き寄せる』『涙という骨』、エッセイ集『心の辞典』など多数発表。邦訳に第八回日本翻訳大賞受賞作品『詩人キム・ソヨン一文字の辞典』（姜信子監訳、一文字辞典翻訳委員会訳、クオン）、エッセイ集『奥歯を噛みしめる 詩がうまれるとき』（姜信子監訳、奥歯翻訳委員会訳 かたばみ書房）がある。



辻野裕紀（つじの・ゆうき）

九州大学大学院言語文化研究院准教授、同大学大学院地球社会統合科学府准教授、同大学韓国研究センター副センター長。著書に『形と形が出合うとき：現代韓国語の形態音韻論的研究』、共編著書に『日韓の交流と共生：多様性の過去・現在・未来』（いずれも九州大学出版会）がある。現在、朝日出版社「あさひてらす」で「母語でないことばで書く人びと」、白水社「web ふらんす」で「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎」を連載中。

本イベントには、韓国の著名な詩人オ・ウン氏、キム・ソヨン氏に加え、本センターの辻野裕紀副センター長・准教授も登壇し、韓国の文学、なかんずく、詩についての緻密なトークが展開された。平日にもかかわらず、多くの方々にご来場いただき、登壇者間の議論は固より、フロアとの質疑応答も活発に行われ、知的刺激に満ちた、大変有意義な時間になった。



K-BOOKフェスティバル サテライトイベント

鼎談 韓国の 詩人と考える 文学の世界

2023.11/21 火 開場 18:00
18:30~20:30

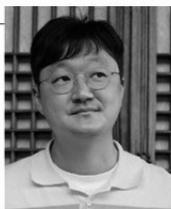
定員

70名
入場無料
(要申込)

会場 JR博多シティ10階会議室
申込み <https://cuonbooks231121.peatix.com/>



登壇者
プロフィール



オ・ウン

1982年韓国全羅北道井邑生まれ。2002年『現代詩』にて詩人としてデビュー。詩集に『ホテルタッセルの豚たち』『私たちは雰囲気を楽しめる』『有から有』『左手は心が痛い』、青少年詩集に『心の仕事』、散文集に『君と僕と黄色』『なぐさめ』など。邦訳に『僕には名前があった』（吉川凧訳、クオン）がある。朴寅煥文学賞、具常詩文学賞、現代詩作品賞、大山文学賞などを受賞。



キム・ソヨン

詩人。露雀洪思容文学賞、現代文学賞、李陸史詩文学賞、現代詩作品賞を受賞。詩集『極まる』『光たちの疲れが夜を引き寄せる』『涙という骨』、エッセイ集『心の辞典』など多数発表。邦訳に第八回日本翻訳大賞受賞作品『詩人キム・ソヨン 一文字の辞典』（姜信子監訳、一文字辞典翻訳委員会訳、クオン）、エッセイ集『奥歯を噛みしめる 詩がうまれるとき』（姜信子監訳、奥歯翻訳委員会訳、かたばみ書房）がある。



つじの ゆうき
辻野 裕紀

九州大学大学院言語文化研究院准教授、同大学大学院地球社会統合科学府准教授、同大学韓国研究センター副センター長。著書に『形と形が出合うとき：現代韓国語の形態音韻論的研究』、共編著書に『日韓の交流と共生：多様性の過去・現在・未来』（いずれも九州大学出版会）がある。現在、朝日出版社「あさひてらす」で「母語でないことばで書く人びと」、白水社「webふらんす」で「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎」を連載中。

問合せ先

九州大学韓国研究センター TEL:092-802-2027 E-mail: intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

共催：クオン、九州大学韓国研究センター 後援：韓国文学翻訳院

【イベント参加】

「2023日韓市民100人未来対話」

2023年11月24～26日

2023年11月24日（金）から11月26日（日）にかけて、「2023日韓市民100人未来対話」（主催：韓国国際交流財団、ソウル大学校日本研究所、早稲田大学韓国学研究所）が韓国の松島（仁川広域市）にて開催された。本センターも日本側の協力大学として名を連ねており、辻野裕紀副センター長・准教授（言語学）と呉獨立助教（社会学）がパネリストとして参加した。

本行事の趣旨は、「日韓両国の各界専門家、学者、NGO、一般市民が、昨今の東北アジアにおける環境変化及び両国が直面する共同の懸案について共に解決方を模索し、未来志向的で相互互恵的な日韓関係の基盤を構築する」ところにあり、今回で第7回目を迎えた。

今年のテーマは「持続可能な地球を導く日韓市民協力」で、以下のような日程で行われた：

● 11月24日（金）

歓迎晩餐会など（オラカイ松島パークホテル）

● 11月25日（土）

開会式、基調演説など（松島コンベンシア）

分科別討論

分科セッション1「プラネタリーヘルスのための地域社会協力の可能性」

分科セッション2「ポスト真実時代、ソーシャルメディアの中の日韓関係」

分科セッション3「持続可能な日韓関係のための未来世代交流」

分科セッション4「科学技術の発展と市民参加、そして実践」

● 11月26日（日）

総合討論、閉会式など（松島コンベンシア）

昨年の静岡での開催に引き続き、今年も無事に対面で行われ（2020年と2021年はCOVID-19の影響でオンライン開催）、自由闊達な議論が展開されると同時に、日韓市民の極めて貴重な交流の場となった。





【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

九州大学韓国研究センター 韓国語学講演会

2024年1月16日

2024年1月16日（火）、文京学院大学の新井保裕先生（社会言語学・韓国朝鮮語学）をお招きし、「九州大学韓国研究センター 韓国語学講演会」（2部構成）を開催した。

第1部

講演「中国朝鮮族の「移動」とことば」

- ・ 講師：新井保裕（文京学院大学 外国語学部 准教授）
- ・ 日時：2024年1月16日（火）10時30分～12時
- ・ 会場：九州大学伊都キャンパス センター2号館2201教室
- ・ 司会：辻野裕紀（本センター副センター長、大学院言語文化研究院准教授）
- ・ 後援：韓国国際交流財団

第2部

対談「コリアン・ディアスポラを語る一言語学の眼差し」

- ・ 対談者：新井保裕×辻野裕紀
- ・ 日時：2024年1月16日（火）16時40分～18時10分
- ・ 会場：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 A-118教室
- ・ 後援：韓国国際交流財団

第1部は新井保裕先生の講演「中国朝鮮族の「移動」とことば」、第2部は新井先生と辻野裕紀准教授（本センター副センター長）との対談「コリアン・ディアスポラを語る一言語学の眼差し」で、第1部では中国朝鮮族の歴史や言語生活、言語意識などをめぐり、最新の研究成果に基づいた専門性の高いお話が展開された。また、第2部では中国朝鮮族のみならず、中央アジアの高麗人や在日コリアンなども含めた「コリアン・ディアスポラ」についての言語学的考察に加えて、言語継承や言語教育、文学、映画に至るまで、縦横無尽にトピックが拡散していくスタイルの対談が行われた。

平日の日中にもかかわらず、本学学生や教職員のみならず、学外の方々にもご来場いただき、特に第2部においてはフロアとの活発な質疑応答もなされ、非常に意義深い講演会となった。

□講演者プロフィール



新井保裕（あらい・やすひろ）

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士後期課程修了。同大学助教を経て、2018年から東洋大学国際教育センター特任助教。2020年から現在は文京学院大学外国語学部准教授。専門は社会言語学、韓国朝鮮語学。



※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業『『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究』の一環として開催された。

【研究事業：共同研究プロジェクト研究会】

『『ポスト1965年体制』研究』共同研究会

2024年1月20日

2024年1月20日（土）に、韓国研究センターでは共同研究プロジェクト研究会を開催した。2023年度から、韓国研究センターは研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」を進めている。本共同研究プロジェクトの一環として開催される今回の研究会では、作家・翻訳家である伊東順子先生の講演が行われた。

- ・日 時：2024年1月20日（土）
14：30～17：00（受付14：00）
- ・会 場：博多アーバンスクエアの第1会議室
- ・講演者：伊東順子（作家・翻訳家）
- ・司 会：出水薫（韓国研究センター 副センター長）
- ・定 員：35名（先着順）
- ・共 催：九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
：その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

POST
1965
年体制

2024.1.20 (土) 14:30~17:00
博多アーバンスクエア 受付 14:00
(第1会議室)

第1部 講演
伊東順子 (作家・翻訳家)
私が暮らした韓国の30年、
疾走する社会で転がる石になれ

第2部 鼎談・質疑応答
伊東順子 (作家・翻訳家)
出水薫 (韓国研究センター 副センター長)
緒方義広 (福岡大学 准教授)

後援：韓国国際交流財団

申込先 <https://forms.gle/L7nwRqfrfnhXsCu7> (定員35名)
問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL 092-802-2027
Email: mtkrckcs.uok@jmu.kyushu-u.ac.jp

□プログラム

- 第1部 講演：伊東順子（作家・翻訳家）
「私が暮らした韓国の30年、疾走する社会で転がる石になれ」
- 第2部 鼎談・質疑応答
伊東順子（作家・翻訳家）
出水薫（韓国研究センター 副センター長）
緒方義広（福岡大学 人文学部東アジア地域言語学科 准教授）

□講演者プロフィール

伊東順子（いとう・じゅんこ）
作家・翻訳家。愛知県生まれ。1990年に訪韓。翻訳・編集プロダクション運営。2017年に「韓国を語らい・味わい・楽しむ雑誌『中くらの友だち一韓くに手帖』（皓星社）を創刊。著書に『韓国 現地からの報告』（ちくま新書）、『韓国カルチャー』『続・韓国カルチャー』（集英社新書）、訳書にイ・ヘミ『搾取都市、ソウル』（筑摩書房）などがある。また解説を担当したものにチョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』（筑摩書房、斎藤真理子訳）がある。

第1部は、伊東順子さんの講演「私が暮らした韓国の30年、疾走する社会で転がる石になれ」、第2部は伊東順子先生と出水薫教授（本センター副センター長）、そして緒方義広（福岡大学准教授）との鼎談が行われた。第1部の講演では、大統領の在任期間に合わせ、当時の出来事と韓国に住んでいなかったら絶対に分からない日本人としての経験を、興味深いエピソードとしてお話いただいた。これにより、疾走してきた韓国の社会をより深く味わうことができる時間となった。

また、第2部で行われた鼎談では、出水教授がコーディネーターとなり、緒方先生やフロアからの質疑も交えながら、この30年間の日韓関係の変化や韓国社会自体の変化について伊藤先生ならではの、現地からの声を伺うことができた。

雨の日にもかかわらず、本センターの関係者以外、いろんな方々にもご来場いただいた。伊東順子さんの講演と鼎談、そして質疑応答を通じて、韓国の歴史や社会に対する理解が深まり、異なる視点からの洞察が得られたことができた大変有益な時間であった。



【研究事業：経済学ブランチ講演会】

「世界史における韓国経済： 過去・現在・未来」

2024年1月20日

韓国研究センター研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の経済学ブランチでは、2024年1月20日（土）に研究会を開催した。今回の研究会では、深川博史先生（九州大学名誉教授）と高安雄一先生（大東文化大学経済学部教授）の報告が行われた。

- ・日 時：2024年1月20日（土） 13時30分～17時15分
- ・場 所：九州大学経済学研究院 517セミナー室
- ・司 会：水野敦子（九州大学大学院経済学研究准教授）
- ・主 催：韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

第1報告：深川博史（九州大学名誉教授、東海大学文理融合学部教授）

「韓国の借地経営に関する考察：平坦部農村地帯の農家調査から」

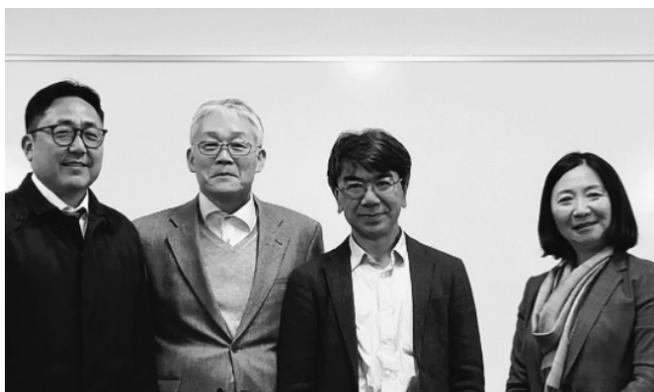
討論：黄在顕（東国大学校社会科学大学教授）

第2報告：高安雄一（大東文化大学経済学部教授）

「韓国農家の地域別・主要作物別の外国人労働者雇用状況 —2020年農業センサスによる分析—」

討論：黄在顕（東国大学校社会科学大学教授）

全体討論



【研究事業：共同研究プロジェクト シンポジウム】

「『ポスト1965年体制』研究」共同研究会

2024年2月29日

2024年2月29日（木）、ソウル大学校国際大学院の朴泰均教授をお招きし、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」（共催：九州韓国研究者フォーラム、後援：韓国国際交流財団）のシンポジウムを、JR博多シティ会議室 9階会議室2で開催した。

- ・主 催：九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム
- ・日 時：2024年2月29日（木）18：00～20：00（17：30受付開始）
- ・場 所：JR博多シティ会議室 9階会議室2
- ・後 援：韓国国際交流財団

講演：朴泰均（ソウル大学 国際大学院 教授）

「고르디우스의 매듭풀기：2010년 이후 한일관계의 현황과 전망」

（ゴルディアスの結び目ほどもき：2010年以降の日韓関係の現況と展望）

- ・指定討論：崔慶原（常葉大学 外国語学部 教授）

□講演者プロフィール



朴泰均（パク・テギョン）

1966年生まれ。ソウル大学国際大学院教授。専門は韓国近現代史。

主な著作に『ベトナム戦争』（2023）『パク・テギョンのイシュー韓国史』（2015）、『事件から読み解く大韓民国』（2013）など多数。

本シンポジウムでは、まず、朴泰均教授の講演「ゴルディアスの結び目ほどもき：2010年以降の日韓関係の現況と展望」の後、崔慶原（常葉大学 外国語学部 教授）による指定討論が行われた。

朴泰均教授の講演では、これまでの日韓関係をゴルディアスの結び目にたとえ、これらの絡まり合った結び目を日韓でどのように解きほぐそうとしてきたのかを詳細に検討し、現大統領の尹錫悦がこれを一気に切り離そうとしているのではないかという疑問を提起した。最後に、4つの教訓を整理し、特に歴史認識問題においては「加害者が加害を感じられない」「被害者が被害意識から抜けられない」点を課題として提示された。

崔慶原先生やフロアからの質疑も交えながら、1965年の日韓基本条約締結以降の日韓関係の変化や韓国社会自体の変化について歴史学者としての分析のみならず、韓国ドラマからの視点などを交えながら大変貴重なお話を伺うことができた。



平日の夕方にもかかわらず、本センターの関係者以外、いろんな方々にもご来場いただいた。朴泰均教授の講演と討論、そして質疑応答を通じて、日韓関係の歴史や今後の課題に対する理解が深まり、異なる視点からの洞察が得られた大変有益な時間であった。

主催 九州大学韓国研究センター・九州韓国研究者フォーラム 後援 韓国国際交流財団
九州大学韓国研究センター研究事業
「『世界史』の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究」

定員50名
先着順
逐次通知あり

九州大学韓国研究センター×九州韓国研究者フォーラム
共同研究プロジェクトシンポジウム

「ポスト1965年体制」研究

日時 2024年2月29日(木)18:00~20:00(17:30受付開始)
場所 JR博多シティ会議室 9階会議室2 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1番1号
JR博多シティ9F(博多駅直結)
TEL:092-292-9258

申込先 URL若しくはQRコードよりお申し込みください。
<https://forms.gle/MX9kASXGSiKS3gAh7>

◆講演 朴泰均(ソウル大学 国際大学院 教授)
「고르디우스의 매듭풀기 : 2010년 이후 한일관계의 현황과 전망」
「ゴルディアスの結び目ほぎ:2010年以降の日韓関係の現況と展望」

◆指定討論 崔慶原(常葉大学 外国語学部 教授)

講演者紹介
朴泰均(パク・テギョン)
1966年生まれ。ソウル大学国際大学院教授。専門は韓国近現代史。
主な著作に『ベトナム戦争』(2023)『パク・テギョンのイシュー韓国史』(2015)、
『事件から読み解く大韓民国』(2013)など多数。

お問い合わせ 九州大学韓国研究センター TEL:092-802-2027 E-mail:intkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

※本シンポジウムは、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されます。

【研究事業：教育学ブランチ研究会】

「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

2024年3月2日

2024年3月2日（土）、本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」における教育学ブランチの第2回研究会が、九州韓国研究者フォーラムとの共催で開催された。

- ・日 時：2024年3月2日（土）14：30～17：30
- ・会 場：アクロス福岡 604会議室
- ・司 会：元兼正浩（九州大学韓国研究センター長）
- ・指定討論者：田中光晴（文部科学省総合教育政策局 / 専門職）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

第1報告

佐々木正徳（立教大学 外国語教育研究センター教授）

- ・「教育と男性性：民主化以後の性の分断」

第1報告では、民主化とジェンダー問題が何となく連動するように勘違いしやすいが、その関係性について改めて問い直すことが報告された。韓国の民主化運動は、軍部政権と戦う際に暴力的な手段を厭わず進められたが、民主化が成就した後も、準定型的な教育として機能する「義務兵役」を残すという選択をした。これが、軍隊文化と男性性が韓国社会に強く残り、今日の韓国におけるジェンダー間の葛藤に影響を与えていると指摘された。

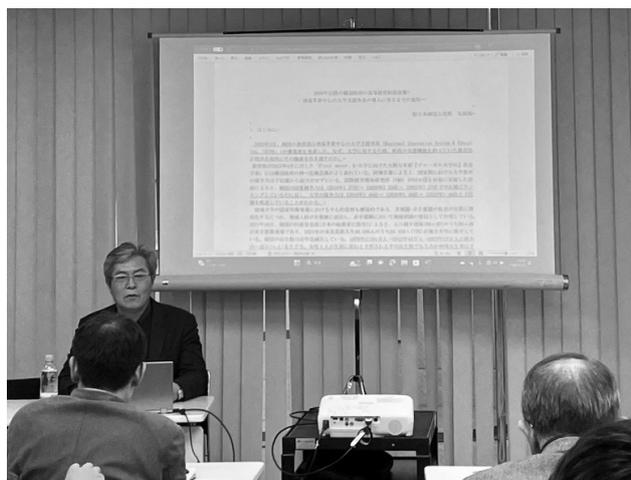


第2報告

梁鎬錫（駐日本国大韓民国大使館／首席教育官）

・「2000年以降の韓国政府の大学財政政策」

第2報告では、韓国政府の高等教育財政政策の変遷を政権の流れに沿って明らかにしながら、少子高齢化社会を迎えている韓国社会へ対応するために最近導入している「地域革新中心の大学支援体系」について明らかにした。1990年から始まったBK21（Brain Korea21century）という「選択と集中」による資源配分は続いているが、「地域革新中心の大学支援システム：RISE」の導入や「グローバル大学30プロジェクト」などを通じて、国公立大学の統廃合や私立大学の特性化を促進している点が報告された。



各報告では、指定討論者の田中光晴（文部科学省総合教育政策局）さんからコメントをいただき、会場からのいろんご質問・ご意見が出て、活発な議論が繰り広げられた。本研究会を通じて、ジェンダーや少子高齢化に伴う高等教育への懸念は、日本と韓国の両国で共通している社会的な問題であるものの、韓国だけに存在する独自の要因も存在していることで、日韓に関する理解が深まる時間になった。

主催:九州大学韓国研究センター 共催:九州韓国研究者フォーラム 後援:韓国国際交流財団



九州大学韓国研究センター研究事業

『世界史』の中の韓国

その構造変動に関する総合的研究

教育学プラン4研究会

1990年代以降の日韓の教育政策を
世界的潮流の中に読み解く

2024 3/2 [SAT] 14:30-17:30

会場: アクロス福岡604会議室

司会: 元兼 正浩 (九州大学 韓国研究センター長)

指定討論者: 田中 光晴 (文部科学省総合教育政策局/専門職)

第1報告

教育と男性性: 民主化以後の性の分断

報告者: 佐々木 正徳 (立教大学 外国語教育研究センター教授)

第2報告

2000年以降の韓国政府の大学財政政策

報告者: 梁 鎬錫 (駐日本国大韓民国大使館/首席教育官)

※本研究会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国: その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されます。

問合せ先/九州大学韓国研究センター TEL: 092-802-2027 E-mail: intlkrcks.uok@jmu.kyushu-u.ac.jp

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

作家・姜信子先生講演会

「コリアン・ディアスポラと文学：流転、追放、ジェノサイド、そして記憶の物語り」

2024年3月3日

2024年3月3日（日）、作家で翻訳家の姜信子氏を招聘し、JR博多シティ会議室にて、講演会「コリアン・ディアスポラと文学：流転、追放、ジェノサイド、そして記憶の物語り」を開催した。

- ・日 時：2024年3月3日（日）14時30分～16時30分（14時開場）
- ・場 所：JR博多シティ10階会議室
- ・講演者：姜信子先生（作家）
- ・司 会：辻野裕紀（九州大学韓国研究センター副センター長）
- ・定 員：50名
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール



姜信子（きょうのぶこ／かんしんじゃ）

作家。横浜生まれ。路傍の声に耳傾けて読む書く歌う旅をする日々を重ねてきた。近年は「口先案内人」と称して、歌や語りの芸能者と共に小さな「語りの場／声が解き放たれる乱場」を開く試みも。さらに、関東大震災百年を契機に、命を蔑ろにするすべての力に抗して百年続く「百年芸能祭」を全国各地で展開中。『生きとし生ける空白の物語』（港の人）、『現代説経集』（ぶねうま舎）、『は生まれ、ふたたび』（新泉社）、『忘却の野に春を想う』（山内明美との共著、白水社）、『語りと祈り』（みすず書房）など著書多数。編著に『金石範 評論集ⅠⅡ』（明石書店）等。また、訳書に『あなたたちの天国』（李清俊、みすず書房）、『モンズーン』（ピョン・ヘヨン、白水社）、詩集『海女たち』（ホ・ヨンソン、新泉社）、『たそがれ』（黄皙暎、CUON）、詩集『数学者の朝』（キム・ソヨン、CUON）、『奥歯を噛みしめる』（キム・ソヨン、CUON）等がある。

本講演では、中央アジアに住む高麗人を出発点に、キム・スム『さすらう地』、キム・ヨンス『七年の最後』、ファン・ソギョン『鉄道員三代』、金時鐘『猪飼野詩集』などにも触れつつ、朝鮮半島を離れて流転したコリアンたちの〈生きた近現代史〉について多角的な視点から詳論された。〈ディアスポラ〉という単語のなかに潜む、難民、虐殺、記憶の封印といった要素を丁寧に切開し、さらには「朝鮮」や「歴史」にとどまらず、ガザなど、話題はアクチュアルな国際情勢にも際限なく拡がった。

「朝鮮の民のディアスポラ（流転）の旅がロシア極東へと向えば、流転の運命を生きる高麗人となり、日本へと向かった流転の民には、関東大震災後の不逞鮮人虐殺という運命が待ってもしました。植民地支配からの解放後の南北分断、済州4・3もまた、人々をディアスポラの運命へと押しやっています。そして、流転の絶望の底から紡ぎだされた歌があり、その記憶を刻む文学があります。」（姜信子）

なお、本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されたものであるが、まさに「『世界史』の中の韓国」（この場合の〈世界史〉とは各国史の寄せ集めではなく、国民国家を超えたもっと広範かつ動的、流動的な歴史）という主題に極めて相応しい内容だった。



主催：九州大学韓国研究センター 後援：韓国国際交流財団

作家・姜信子先生講演会

「コリアン・ディアスポラと文学： 流転、追放、ジェノサイド、 そして記憶の物語り」

定員50名
先着順

日時 2024年3月3日(日) 14:30~16:30 (14時開場)
場所 JR博多シティ10階会議室 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1番1号
JR博多シティ10F (博多駅直結)
TEL: 092-292-9258

申込先 URL若しくはQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/rguzj6Tue2czdciL7>



▶ 講演者 姜信子先生(作家) ▶ 司会 辻野裕紀(九州大学韓国研究センター副センター長)

講演者プロフィール //////////////////////////////////////

姜信子(きょうのぶこ/かんしんじゃ)

作家。横浜生まれ。路傍の声に耳傾けて読む書く歌う旅をする日々を重ねてきた。近年は「口先案内人」と称して、歌や語りの芸能者と共に小さな「語りの場/声が解放される乱場」を開く試みも。さらに、関東大震災百年を契機に、命を蔑ろにするすべての力に抗して百年続く「百年芸能祭」を全国各地で展開中。

『生きとし生ける空白の物語』(港の人)、『現代説経集』(ぶねうま舎)、『は生まれ、ふたたび』(新泉社)、『忘却の野に春を想う』(山内明美との共著 白水社)、『語りと祈り』(みすず書房)など著書多数。編著に『金石範 評論集Ⅱ』(明石書店)等。また、訳書に『あなたたちの天国』(李清俊 みすず書房)、『モンスーン』(ピョン・ヘヨン 白水社)、詩集『海女たち』(ホ・ヨンソン 新泉社)、『たそがれ』(黄哲暎 CUON)、詩集『数学者の朝』(キム・ソヨン CUON)、『奥歯を噛みしめる』(キム・ソヨン かたばみ書房)等がある。



問合せ先 九州大学韓国研究センター
TEL: 092-802-2027 E-mail: intkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「世界史」の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究の一環として開催されます。

【韓国研究センター・九州史学研究会近現代史部会 共同企画】

史家は「通史」をいかに書くべきか？ —新城道彦著『朝鮮半島の歴史』を素材に—

2024年3月16日

2023年度第45回サントリー学芸賞（「思想・歴史」部門）の受賞作である『朝鮮半島の歴史』（新潮社）を題材に、著者である新城道彦氏（フェリス女学院大学国際交流学部教授、元九州大学韓国研究センター助教、九州大学大学院比較社会文化学府出身）を福岡にお迎えし、書評会を兼ねた「通史の叙述」にまつわる研究集会を開催した。

今回の研究集会は、歴史学を学ぶ若手の院生・学部生にも最新の学術成果を周知するために、九州大学日本史学研究室に事務局をおく九州史学研究会の近現代史部会と本センターの共同開催で行われた。

- ・日 時：2024年3月16日（土）13時30分～17時
- ・場 所：九州大学西新プラザ 中会議室（2F）
- ・開催方法：対面式（事前登録不要）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター・九州史学研究会近現代史部会
- ・司 会：原口大輔（九州大学講師）

□プログラム

- 1 企画の趣旨説明及び書評（永島広紀・韓国研究センター 教授）
- 2 日本史研究者による「通史」にまつわる話題（山口輝臣・東京大学 教授）
- 3 講評（有馬学・福岡市博物館総館長）
- 4 著者レスポンス（新城道彦）

九州史学研究会近現代史部会 × 韓国研究センター 共同企画

本稿
國史
史眼

史家は「通史」をいかに書くべきか？

—新城道彦著『朝鮮半島の歴史』を素材に—

日時: 令和6(2024)年 **3月16日** (土) 13:30~17:00(予定)

場所: 九州大学西新プラザ・中会議室(2F)

開催方法: 対面式・事前登録不要

- 1 企画の趣旨説明及び書評(永島 広紀)
- 2 日本史研究者による「通史」にまつわる話題(仮題)(山口 輝臣: 東京大学教授)
- 3 講評(有馬 学: 福岡市博物館総館長)
- 4 著者レスポンス(新城 道彦)

* 司会進行(原口 大輔: 九州大学講師)



新城道彦 氏

【企画の趣旨】

2023年度・第45回サントリー学芸賞(「思想・歴史」部門)の受賞作である『朝鮮半島の歴史』(新潮社刊)を題材に、著者である新城道彦氏(フェリス学院大学国際交流学部教授、元本学韓国研究センター助教、本学大学院比較社会文化学府出身)を福岡にお迎えし、書評会を兼ねた「通史の叙述」にまつわる研究集会を開催します。

また、歴史学を学ぶ若手の院生・学部生にも最新の学術成果を周知するために、九州大学日本史学研究室に事務局をおく九州史学研究会の近現代史部会と共同開催の形をとるものです。

九州史学

RCKS

九州大学
韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

野間秀樹講演会「歴史そして現代へ： 韓国語と日本語」

2024年3月25日

2024年3月25日（月）、言語学者で美術家の野間秀樹先生を招聘し、JR博多シティ会議室にて、講演会「歴史そして現代へ：韓国語と日本語」を開催した。

- ・日 時：2024年3月25日（月）18時30分～20時30分（18時開場）
- ・場 所：JR博多シティ10階会議室
- ・講演者：野間秀樹先生（言語学者・美術家）
- ・司 会：辻野裕紀（九州大学韓国研究センター副センター長）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール



野間秀樹（のま・ひでき）
言語学者・美術家。韓国・朝鮮と日本、双方の血を嗣ぐ。著書に『新版 ハングルの誕生』『図解

でわかる ハングルと韓国語』いずれも平凡社、『K-POP原論』ハザ、『言語存在論』東京大学出版会、『言語 この希望に満ちたもの』北海道大学出版会、など。編著書に『韓国語教育論講座1-4巻』くろしお出版、『韓国・朝鮮の知を読む』クオン、など。東京外国語大学大学院教授、ソウル大学校韓国文化研究所特別研究員、国際教養大学客員教授、明治学院大学客員教授・特命教授などを歴任。大韓民国文化褒章、アジア・太平洋賞大賞、ハングル学会周時経学術賞、パピルス賞受賞。リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、ブラッドフォード国際版画ビエンナーレ、ワルシャワ、プラハ、ソウル、大邱などでの現代美術展に出品。第13回現代日本美術展佳作賞。東京、札幌、京都で個展。



2023年度韓国研究センター活動

2023年度

- 5月16日 第20回 韓国研究センター研究戦略会議
- 6月 2日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「境界を超えた二人の詩人：茨城のり子による尹東柱詩翻訳」（講師：金智英）開催
- 6月 5日 第1回 韓国研究センター委員会
- 6月10日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 7月14日 尹海東・漢陽大学教授が外国人訪問研究員として来所（～2023年8月24日）
- 8月21日 第21回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 9月 1日 第2回 韓国研究センター委員会（書面回議）
- 9月17日 研究事業（教育学ブランチ）：「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 9月23日 研究事業（歴史学ブランチ）：「韓国前近代国際関係の模式化の意義普遍化」研究会開催
- 10月 4日 第22回 韓国研究センター研究戦略会議
- 10月14日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（成川彩講演）（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 10月21日 「JIBSN セミナー2023」に元兼正浩センター長がウェビナー参加
- 10月21日 「朝鮮史研究会（第60回大会）」にセンター関係教員が参加（～10月22日）
- 11月10日 第23回 韓国研究センター研究戦略会議
- 11月21日 K-BOOK フェスティバルサテライトイベント開催：鼎談「韓国の詩人と考える文学の世界」（共催：クオン）
- 11月24日 「2023日韓市民100人未来対話」にセンター関係教員が参加（～11月26日）
- 12月 4日 第3回 韓国研究センター委員会
- 12月25日 陳昌洙・世宗研究所 日本研究センター長が外国人訪問研究員として来所（～2024年1月24日）
- 1月16日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「韓国研究センター 韓国語学講演会」（講師：新井保裕）開催
- 1月20日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（伊東順子講演）（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 1月20日 研究事業（経済学ブランチ）：「世界史における韓国経済：過去・現在・未来」研究会開催
- 2月16日 第24回 韓国研究センター研究戦略会議
- 2月19日 第25回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 2月29日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：シンポジウム開催（朴泰均講演）（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 3月 2日 研究事業（教育学ブランチ）：「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 3月 3日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「コリアン・ディアスポラと文学：流転、追放、ジェノサイド、そして記憶の物語り」（講師：姜信子）開催
- 3月 4日 第4回 韓国研究センター委員会
- 3月16日 共同企画研究集会「史家は『通史』をいかに書くべきか？」開催
- 3月25日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「歴史そして現代へ：韓国語と日本語」（講師：野間秀樹）開催

2023년도 한국연구센터 활동목록

2023년도

- 5월16일 제20회 한국연구센터 연구전략회의
- 6월 2일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「경계를 넘어선 두 명의 시인: 이바라기 노리코의 운동 주 시 번역」(강연자: 김지영) 개최
- 6월 5일 제1회 한국연구센터 위원회의
- 6월10일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 7월14일 외국인 방문연구원 수용: 윤해동 한양대 교수 (∼2023년 8월 24일)
- 8월21일 제21회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 9월 1일 제2회 한국연구센터 위원회의 (서면회의)
- 9월17일 연구사업 (교육학 부문):「1990년대 이후 한일 교육정책과 세계적 조류」 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 9월23일 연구사업 (역사학 부문):「한국 전근대의 국제관계에 대한 모형 구축과 그 보편적 의미의 탐구」 연구회 개최
- 10월 4일 제22회 한국연구센터 연구전략회의
- 10월14일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (나리카와 아야 강연) (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 10월21일 「JIBSN 세미나2023」에 모토카네 마사히로 센터장 참가
- 10월21일 「조선사 연구회 (제60회 대회)」에 센터 관련 교원 참가 (∼10월 22일)
- 11월10일 제23회 한국연구센터 연구전략회의
- 11월21일 K-BOOK 페스티벌 후쿠오카 이벤트 개최: 토크 이벤트「한국의 시인과 생각하는 문학의 세계」(공동주최: 쿠온)
- 11월24일 「2023한일시민 100인 미래대화」에 센터 교원 참석 (∼11월 26일)
- 12월 4일 제3회 한국연구센터 위원회의
- 12월25일 외국인 방문연구원 수용: 진창수 세종연구소 일본연구센터장 (∼2024년 1월 24일)
- 1월16일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「한국연구센터 한국어학 강연회」(강연자: 아라이 야스히로) 개최
- 1월20일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (이토 준코 강연) (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 1월20일 연구사업 (경제학 부문):「세계사에 있어서의 한국 경제: 과거, 현재, 미래」 연구회 개최
- 2월16일 제24회 한국연구센터 연구전략회의
- 2월19일 제25회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 2월29일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 심포지엄 개최 (박태균 강연) (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 3월 2일 연구사업 (교육학 부문):「1990년대 이후 한일 교육정책과 세계적 조류」 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 3월 3일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「코리안 디아스포라와 문학: 유전 (流轉), 추방, 제노사이드 그리고 기억에 대한 이야기」(강연자: 교우 노부코 [강신자]) 개최
- 3월 4일 제4회 한국연구센터 위원회의
- 3월16일 공동기획연구회「역사가는 '통사' 를 어떻게 써야만 하는가?」 개최
- 3월25일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「역사 그리고 현대로: 한국어와 일본어」(강연자: 노마 히데키) 개최